（様式２）

令和　　年　　月　　日

動物実験研究計画書

|  |  |
| --- | --- |
| １．動物実験責任者（申請者） | 所属・職名　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　　　名　　　　　　　　　　　　　　　㊞ |
| ２．動物実験実施者 | 所属・職名　　　　　　　　　　　氏　　　名　　　　　　　　　　　　所属・職名　　　　　　　　　　　氏　　　名　　　　　　　　　　　所属・職名　　　　　　　　　　　氏　　　名　　　　　　　　　　　所属・職名　　　　　　　　　　　氏　　　名　　　　　　　　　　　 |
| ３．研究課題 |  |
| ４．研究の目的及び必要性 |  |
| ５．実験動物の代替について | （該当するものを○で囲んでください）1.代替手段がない　2．代替手段では精度が不十分　3．代替手段の経費莫大4．その他【理由】 |
| ６．実験動物の数の妥当性と必要性について |  |
| ７．使用する動物種の妥当性と必要性について |  |
| ８．特殊実験区分について（該当項目をすべて■） | □ | 1.感染実験　　安全度分類：　□BSL1　　□BSL2　　□BSL3 |
| □ | 2.遺伝子組換え動物使用実験　　区分：　□P1A　　□P2A　　□P3A |
| □ | 3.放射性同位元素・放射線使用実験　 |
| □ | 4.化学発癌・重金属実験 |
| □ | 5.該当なし |
| ９．動物実験の種類（該当項目をすべて■） | □ | 1.試験・研究 |
| □ | 2.教育・訓練 |
| □ | 3.その他 |
| 10．動物実験を必要とする理由（該当項目をすべて■） | □ | 1.検討したが、動物実験に替わる手段がなかった。 |
| □ | 2.検討したが、代替手段の精度が不十分だった。 |
| □ | 3.その他 |
| 11．想定される苦痛のカテゴリー (＊)研究計画の中で、最も苦痛の重い処置についてのカテゴリーを選択し、該当を■ | □ | Ｂ　脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験 |
| □ | Ｃ　脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み（短時間持続するもの）を伴うと思われる実験。 |
| □ | Ｄ　脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験。 |
| □ | Ｅ　無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近いまたはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。 |
| 12．動物の苦痛軽減、排除の方法（該当項目をすべて■） | □ | 1.短時間の保定・拘束および注射など、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない。 |
| □ | 2.科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない、 |
| □ | 3.麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。（薬剤名およびその投与の量・方法を記入：　　　　　　　　　） |
| □ | 4.動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する。 |
| □ | 5.その他（　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　） |
| 13．安楽死の方法（該当項目をすべて■） | □ | 1.麻酔薬等の使用（薬剤名及びその投与の量・方法を記入：　　　　 　　　　　 ） |
| □ | 2.炭酸ガス |
| □ | 3.中枢破壊法（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| □ | 4.安楽死させない（理由： 　　　　　　　　　　　 　　　） |
| 14．動物死体の処理方法（該当項目を■） | □ | 1.外部業者に委託 |
| □ | 2.その他（具体的に記入：　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　） |

(＊) Scientists Center for Animal Welfare (SCAW)が作成した「Categories of Biomedical Experiments Based on Increasing Ethical Concerns for Non -human Species」(動物実験処置に関する苦痛分類)のカテゴリーＡからＥのうち、Ａを除き、項目を立てている。